

図書館だより No.6

2019年10月発行
島根県立大田高等学校
図書館

『図書館だより』5月号でAIに俳句を詠ませる北海道大学の取り組みを紹介しましたが、更に名古屋大学では、AIに小説を書かせる取り組み、その名も「きまぐれ人工知能プロジェクト・作家ですよ」が進んでいることをご存知でしょうか？研究の目的はAIによる文章の生成です。ただ、現時点ではAIにはその文章が文法に沿っているかは判定出来ても、意味が通っているかは分からないそうです。「言語を単なる記号列としてしか操作出来ないAI」と「言語を使って虚構の世界を作り上げることの出来る人間」の差を埋めることの出来る技術が開発される日は来るのでしょうか。

NEW BOOKS



(481) 生き物の死にざま

稲垣栄洋(著)

「空が見えない最期(セミ)」「母なる川で循環していく命(サケ)」「衰を出ることなく生涯を閉じるメス(ミノムシ)」「クモの巣に餌がかかるのをただただ待つ(ジョロウグモ)」「死を悼む動物なのか(ゾウ)」。生き物の「死」をテーマに、「生きるとは何か」「死ぬとは何か」哲学的に考える感動的なエッセイ。



(723) へんな西洋絵画 山田五郎(著)

1800年代後半に活躍したアンリ・ルソーやポール・セザンヌといった画家は、当時の人たちからは「下手な絵」と冷笑されていました。20世紀初頭に入り、その下手さが「逆にすごい」と評価されるようになります。へんな絵、下手な絵を入り口に西洋絵画の歴史を勉強してみましよう。



(910) 芥川賞ぜんぶ読む

菊池良(著)

芥川賞の受賞者は現時点で169人。84年の歴史がある文学賞です。何と、著者の菊池良さんは芥川賞受賞作の全てを読むことを決意して会社を辞めてしまいます。全てを読み切った先に見えてきたものはあったのでしょうか。ちなみに、島根県出身の芥川賞受賞作家は何人いるのでしょうか？気になる人は本書を是非チェックしてみてください！

(913.6) クリムゾンの迷宮

貴志祐介(著)

失業中の藤木芳彦。突然意識を失い、目覚めた時はオーストラリアのバンブル・バンブル国立公園のど真ん中でした。傍らに置かれた携帯用ゲーム機の画面が「ゲームは開始された」と非情なメッセージを映し出した瞬間、生死を懸けたサバイバル・ゲームがスタートするのでした…。果たして生き残るのは誰か！？

図書委員作成！メディア化された作品に関するクイズ！

- Q1. ハリー・ポッターが魔法使いであると知らされた年齢は？
(1-1作成・「ハリー・ポッター(シリーズ)」 J. K. ローリング/作 松岡佑子/訳)
A 10歳 B 11歳 C 12歳
- Q2. 百人一首を集めた人物は？(1-2作成・「ちはやふる」 末次由紀/著)
A 宇都宮頼綱 B 藤原定家 C 藤原道長
- Q3. 自然分岐は何種類でしょう？(1-3作成・「コウノドリ」 鈴/木ユウ/著)
A 6種類 B 3種類 C 10種類
- Q4. 成長し続けている骨はどこでしょう？
(1-4作成・「櫻子さんの足下には死体が埋まっている」 太田紫織/著)
A 小指 B 耳 C 頭
- Q5. 「未来のミライ」に出てくる犬の名前は何か？(2-1作成・「未来のミライ」 細田守/著)
A くんちゃん B. バトラッシュ C. ゆっこ
- Q6. 映画版「ダイナー」の主演は？(2-2作成・「ダイナー」 平山夢明/著)
A. 玉城ティナ B. 斎藤工 C. 藤原竜也
- Q7. 小説「リング」の続編のタイトルは？(2-3作成・「リング」 鈴木光司/著)
A. ルーファ B. リング2 C. らせん
- Q8. 三葉の母の名前は次のうちどれでしょう？(2-4作成・「君の名は。」 新海誠/著)
A. 一葉 B. 落葉 C. 二葉

※正解が知りたい人は図書館、または各クラスの図書委員に訊いてみよう！

図書館教育ニュース 9/18号より ↓

《日本文学書き出しクイズ》

Q. これは
どの作品でしょう？

「半年のうちに世相は変わった。
醜の御楯といでたつ我は。大君
のへにこそ死なめかへりみはせ
じ。」

- A 『火宅の人』 檀一雄
B 『或阿呆の一生』 芥川龍之介
C 『墮落論』 坂口安吾



坂口安吾(さかぐち あんご)

1906年(明治39年)10月20日~1955年(昭和30年)2月17日
日本の小説家、評論家、随筆家。
新潟県新潟市出身。東洋大学印度哲学倫理学科卒業。
純文学のみならず、歴史小説や推理小説も執筆し、
文芸や時代風俗から古代歴史まで広範に材を採る随筆など、多彩な活動をした。
終戦直後に発表した『墮落論』『白痴』により時代の寵児となり、
太宰治、織田作之助、石川淳らと共に、無頼派・新戯作派と呼ばれ、
推理小説では『不連続殺人事件』が注目された。

答え：C 第二次世界大戦後の社会で、墮落という考えを論議した『墮落論』が有名です。また『白痴』は、人間本来の姿を見たいという心理を論議した小説です。また『火宅の人』は、檀一雄の代表作です。